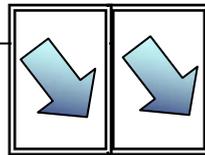


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（8月5日時点）～

国内景況感

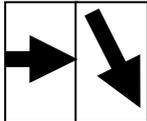
輸出の伸び鈍化等を背景に景気は緩やかに減速している。先行きについても、世界経済の減速に伴って輸出の伸びが一層鈍化することに加え、エコポイント、エコカー補助金等の政策効果が剥落することから、成長ペースの鈍化が予想される



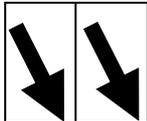
現状 6ヶ月後

(2010年7-9月期) (2011年1-3月期)

①世界経済



②輸出



③生産



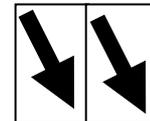
④企業収益



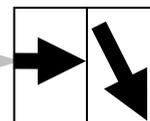
⑤設備投資



⑨公共投資



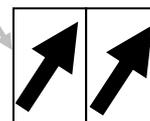
⑦個人消費



⑥雇用・賃金



⑧住宅投資



国内需要



⑩物価



(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・世界景気は、2010 年後半から 11 年前半にかけて先進国の財政拡大余地が乏しい中、景気対策の押し上げ効果の減退や、循環的な動きの弱まりによって成長ペースは減速すると見込まれる。 ・米国経済は、10 年後半も不良債権問題による景気抑制圧力が続く中、景気対策の息切れ、在庫の増加ペース鈍化により減速し、潜在成長率である前期比年率+2.5%を下回る成長が見込まれる。 ・ユーロ圏経済は、10 年 7－9 月期以降もユーロ安、景気刺激策によってプラス成長は続けるものの、金融問題への対応の遅れによる信用収縮、一部の国での緊縮財政等が景気回復の障害となり、緩やかな拡大にとどまると見込まれる。 ・アジア経済は、10 年 7－9 月期以降世界景気回復ペース減速を受け、拡大ペースは鈍化するものの、緩和的な金融環境や歳出拡大を伴う内需刺激策などを背景に、中国主導で堅調を維持すると予想される。
②輸出	海外における政策効果の剥落や在庫復元効果の弱まりに伴い、輸出は緩やかに減速している。先行きも、世界経済の減速を背景として減速感が強まることが予想される。
③生産	輸出が緩やかに減速していることに加え、在庫復元効果も弱まっていることで、生産は増加ペースが鈍化している。先行きについても、輸出の減速ペースが速まることで、生産も減速度合いが強まる見込み。
④企業収益	企業収益は足元で持ち直しているが、生産活動の緩やかな減速に伴って、回復ペースは鈍化している。先行き、生産の減速感が強まることで、企業収益も次第に頭打ちになるだろう。
⑤設備投資	企業収益の回復や稼働率の持ち直しに伴って、輸出関連製造業を中心に設備投資は持ち直している。もっとも、内需の停滞から非製造業の投資抑制が続くため、設備投資の回復ペースは緩慢なものにとどまると予想される。
⑥雇用・賃金	これまでの景気回復の影響が波及することで、雇用や所得は悪化に歯止めがかかっている。先行きは緩やかな回復が期待できるだろう。もっとも、売上高の水準が低い中で雇用過剰感が残存することから、回復ペースは緩慢なものにとどまると予想される。
⑦個人消費	6 月から子ども手当が支給されているが、多くは貯蓄に回っており、消費押し上げ効果は限定的である。雇用・所得環境の改善が限定的なこともあり、消費の回復ペースは緩やかなものにとどまる見込み。なお、エコカー補助金は 9 月末、エコポイント制度は 12 月末に期限切れとなるため、制度終了後は反動減が予想される。
⑧住宅投資	在庫調整の進展や各種住宅取得支援制度の効果、雇用・所得環境が最悪期を脱したことなどを背景として、住宅着工は緩やかに持ち直している。当面、回復傾向が続くだろう。
⑨公共投資	2010 年度当初予算で公共事業関係費が大きく削減されたことから、減少基調が続くと予想される。
⑩物価	景気悪化に由来する物価下押し圧力が根強く残っており、物価下落が続いている。先行き、下落幅は緩やかに縮小することが見込まれるが、需給ギャップは依然大きいことから、プラス転化には時間がかかるだろう。